

オンライン開催

主催：なら思春期・不登校支援研究所



2023年度 スクールカウンセラーのための勉強会

2021年度から始まったこの勉強会は、コロナ禍によってオンライン開催となりました。オンラインとなったことによって日本各地から教育現場で臨床をされている方々にご参加いただくことができました。「スクールカウンセラーのための勉強会」となっていますが、実際には教員や教育現場に関わっているさまざまな職種の方にご参加いただき職種をこえて学び合う機会となっています。今年度も、スクールカウンセラーや専門職の方々の自己研鑽の場として、また相互に学び合える場として、ベテランの臨床現場の先生方から実践に役立つお話を聞く会を提供いたします。今年度も、昨年度お迎えした先生方と、また新しい先生方もお迎えして、学びの場を提供いたします。日々、学校現場で起こるさまざまな課題に対し、教育現場で専門職として仕事を続けるには、学び続ける意欲と安心して支え合える仲間が必要です。ぜひ奮ってご参加ください。

< ベテランスクールカウンセラーから学ぶ 現場で役立つ実践と勘どころ >

日程 月1回日曜日 年10回開催（前期5回、後期5回）

2023年 5月14日・6月11日・7月9日・8月20日・9月10日（前期5回）

2023年 10月8日・11月12日・12月10日 2024年 1月21日・2月11日（後期5回）

● オンラインによるライブ配信 毎回 AM10:00～12:00

	(すべて日曜日)	担当講師の先生	タイトル
1	2023年5月14日	新井肇先生	生徒指導提要（改訂版）が示すこれからの生徒指導・教育相談の方向性
2	6月11日	竹内和雄先生	ネットいじめの現状と指導の方向性
3	7月9日	栗本美百合先生	こころに寄り添うものづくり ～言葉の奥にあるもの～
4	8月20日	岡留美子先生	子どものレジリエンス
5	9月10日	杉原保史先生	社会・経済・文化的要因を考慮した心理支援のあり方
6	10月8日	巽葉子先生	スクールカウンセラーの行う研修～伝える言葉・伝え方～
7	11月12日	植山起佐子先生	スクールカウンセラーと学習
8	12月10日	伊藤美奈子先生	教育現場における自己肯定感を考える（仮）
9	2024年1月21日	嘉嶋領子先生	いじめ対応で思うこと あれこれ
10	2月11日	徳田仁子先生	家庭と学校をつなぐ保護者面接とコンサルテーションの工夫

*原則としてオンデマンド配信は致しませんのでご了承ください

お申し込み方法

メールフォームに下記の項目を明記ください

申し込み先：下記メールフォームもしくは右のQRコードより

※締切：5月1日（日）定員50名

<先着順、定員になり次第締め切ります>

申し込みメールフォーム

http://nara-futoko.net/index_mailform_20223_514.html

メールフォームに下記の項目を明記ください

- 1) 氏名（ふりがな）
- 2) 返信用アドレス（資料添付が可能なもの）
- 3) 携帯電話番号
- 4) 参加希望 ・全10回 ・前期のみ ・後期のみ
- 5) 職種
- 6) 勤務地または居住地
- 7) お持ちの方は臨床心理士番号
- 8) この勉強会を知ったきっかけ



<申し込みQRコード>

○ 対象者 教育現場など子どもに関わる専門職の方
(SC、SSW、教員など)

○ 参加費 前期5回 25,000円、後期5回 25,000円
全10回 申し込みの場合 40,000円

*臨床心理士資格更新ポイント申請予定

*振込先は、お申し込みの後、メールにてお知らせいたします

お問い合わせ先
なら思春期・不登校支援研究所
sayurikuri@gmail.com 研修担当栗本まで



前期 担当講師の自己紹介文



第1回目 5月14日 新井肇先生

高校教員として30年間勤務した後、大学教員として、カウンセリング心理学を基盤とした生徒指導実践の理論化、学校内外の連携による協働的生徒指導体制の構築、教師のストレスとメンタルサポートに関する研究に従事してきました。

今回、「生徒指導提要の改訂に関する協力者会議」の副座長として編纂に携わった立場から、「させる」生徒指導から「支える」生徒指導への転換を目指すなかで、スクールカウンセラーに求められる役割は何かということについて、皆さんと一緒に考えてみたいと思います。

第2回目 6月11日 竹内和雄先生

中学教員20年、市教委指導主事5年、2012年から現職です。専門は生徒指導で「困っている子どもへの対応方法」を研究しています。今、子どもたちの多くがネットで「困っている」ので、この分野に問題意識が高いです。今回は「ネットいじめ」がテーマですが、子どもへの支援の方向性について言及していきたいと考えています。チャット等を活用し、参加型にするつもりですので、そのつもりで参加してください。この問題はまだまだまったばかりです。私が一方的に教授するスタイルではなく、参加者全員で考える機会にしたいです。

第3回目 7月9日 栗本美百合先生

教育領域、医療領域、福祉領域とさまざまな現場で臨床活動をさせていただいています。カウンセリングはもとより、専門のアートアズセラピーに基づいた「ものづくり」もそれぞれの場によって素材や技法、テーマを選んできました。私はできた作品のアセスメントよりも創作の場と創作プロセス自体がこころの支援やこころはぐくみにつながっていると思っています。今回は、ものづくりがこころに働きかけるしくみについて、お話をしてみなさんと共有し、話さないでも共に入られる空間や沈黙などの意味についても一緒に考えてみたいと考えています。

第4回目 8月20日 岡留美子先生

精神科医になって36年です。漢方とブリーフセラピーをバックボーンに診療をしてきましたが、最近は以前から学んできたエリクソン催眠を活用する機会が増えています。今回の内容は、不調になったとき、全ての子どもが精神科を訪れるわけではありません。友人、家族、教師、スクールカウンセラー、地域の人たちなどとの関わりの中で回復していくことも多いです。子どもも診る精神科医として今まで関わってきた子どもたちのこと、そしてそこで考えたことを皆さんと共有したいと思っています。

第5回目 9月10日 杉原保史先生

私は大学の学生相談の現場で相談を行ってきました。同じ教育領域のカウンセラーとして共有できるものがあれば願っています。昨年は、多様な学派を活用する統合的なアプローチについてお話ししました。今回は、アドボカシーやソーシャル・ジャスティスを重視するカウンセリングについてお話しします。クライアントの苦悩をクライアント個人の変化によって解決しようとするモデルには重大な欠陥があります。クライアントと一緒に、クライアントに苦悩をもたらす家族、組織、さらには社会や文化に目を向けて、そのありようを認識し、変化を求めるモデルを学びます。



後期 担当講師の自己紹介文



第6回目 10月8日 巽葉子先生

心理職として児童青年精神科、小児科勤務などを経て、平成8年から大阪の小中学校でスクールカウンセラーをしています。病院勤務時代とは一変した活動の一つは、教職員対象、保護者対象、地域の方対象など、「SCの行う研修」です。教科書も答えもない中で、試行錯誤しながら沢山の研修講師をしてきました。主催者、テーマ、時間も多様です。そして、コロナ禍でのリモート研修やオンデマンド研修をお受けするようになり、益々、悩みながら勉強しながらの研修です。一期一会の研修の場で、自身の伝える言葉や伝え方によって起こる参加者の反応は様々です。今回は私自身の経験も振り返りながら、「SCの行う研修」について皆さんと一緒に考えていきたいと思っています。

第7回目 11月12日 植山起佐子先生

SC歴25年の経験から「学習」について考えてみたいと思います。米国の包括的スクールカウンセリング理論によれば「子どもが学校で成功するためには、学習面、心理社会面、進路面のバランスの良い発達が必要」とされています。SC活動初期の私は「学習面」への取り組みが十分ではありませんでした。それはなぜなのかについて考えてみたいと思い、このテーマを設定しました。学校生活の大部分は「学習」ですが、「学習」とは何か…ということから考え直す必要があるのかもしれない。これまでの経験を振り返り、SCと学習のテーマを深めたいと思います。

第8回目 12月10日 伊藤美奈子先生

学校現場では「子どもたちの自己肯定感を高めよう」という目標を掲げて、さまざまな活動が推進される画面に多く出会います。私自身が、東京都教育委員会と一緒に取り組んだ自己肯定感研究や、いろいろな学校の実践にも触れつつ、自己肯定感を切り口に心理臨床の課題について考える機会になればと思います（仮）

第9回目 2023年1月21日 嘉嶋領子先生

平成25年にいじめ防止対策推進法が施行されて早や10年。その後も、いじめ自死は絶えません。私たちは何か大切なものを見落としているのではないかと、という思いが残ります。人と人との関係がある限り、心の行き違いは生じるものなのでしょう。寂しさや屈辱感に苦しみつつも、せめて自ら命を棄てるまでに追い詰められることのないように、スクールカウンセラーとしてできることは何なのか。みなさまと一緒に考えることができればと思います。

第10回目 2023年2月11日 徳田仁子先生

医療領域で計11年間、教育領域で計25年間臨床活動を行ってきました。スクールカウンセラーとして、家庭と学校をつなぐという観点で保護者面接と教師コンサルテーションを行っています。保護者と教師の間で「動的中立性」を重んじながら、かつ子どもの問題の見立てと見通しに照明を当てて「子どもの成長支援」の方向に舵を取る取り組みの工夫についてお話できたらと思っています。

なら思春期・不登校支援研究所 とは…

本研究所は、子どもたちを支える保護者や、教員・スクールカウンセラーなどの専門職をサポートするための研修の機会を提供します。職種や立場をこえて、みんなで学び支援の輪を広げていくための、拠点の一つとなることを目指しています。

アドバイザー：伊藤美奈子・粕谷貴志・栗本美百合・阪中順子 相馬誠一・竹下三隆・良原恵子（五十音順）

